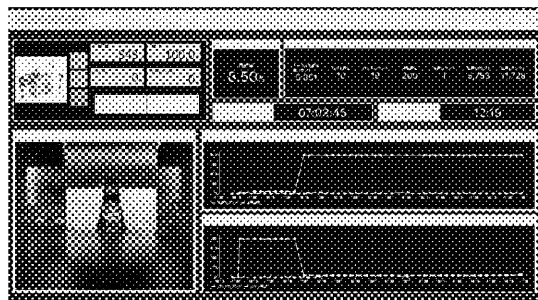


異常の瞬間スロー再生

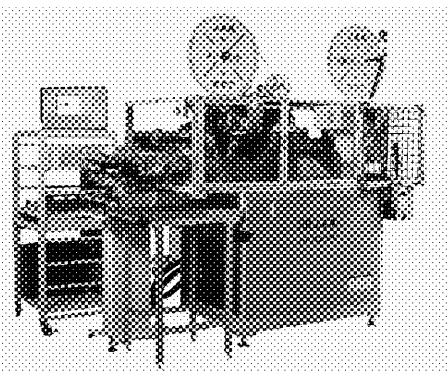
日本オートマチック端子圧着機に録画装置

日本オートマチックマシン（東京都大田区、水野雅文社長）は、自動端子圧着・挿入機にビジネスエンジンアリングの異常時の瞬間録画装置を搭載し4月に販売する。異常時にミリ秒単位で記録された動画を表示し、スロー再生して正確で迅速な事象把握や原因究明に生かせる。圧着・挿入機の稼働率を高め生産性を向上できる。価格は約2700万～3200万円（消費税抜き）。ワイヤハーネス（組み電線）メーカーに提案し、2年で100台の販売を目指す。

従来のネットワークカメラでは圧着機の高速度・微細な動きを捉えられず、異常時には熟練者が現場を見て経験や勘から原因を推察し、稼働再開まで時間を要した。そこで日本



オートマチックマシンは両端圧着・片端圧着挿入機に、グループ企業が開発した高精細画像を扱う小型カメラと、ビジネスエンジンアリングの異常時録画機能付き稼働データ監視システムを搭載した。稼働データはサーバーに蓄積され、パソコンやタブレット端末のウェブブラウザから異常の瞬間をスロー再生（画面左右）し、不具合などの原因把握に生かせる。



異常の瞬間を録画・再生できる全自動端子圧着・挿入機

データは顧客向けメンテナンスのサービス向上、過去データの分析による傾向

エプブラウザーから常時確認できる。異常が発生すると瞬時に異常時の画面に切り替わる。ミリ秒単位で記録した異常時の瞬間動画をスロー再生で可視化し、素早い原因の確認が可能。生産数やロット数の計画対実績を比較したグラフも表示できる。

瞬間録画装置は日本オートマチックマシン製の他の圧着機にも搭載でき、複数台の一元管理が可能。21日から東京ビッグサイト（東京都江東区）で開催される展示会「インターコンジャパン」で実演する。